

小学校高学年部会実践報告

六名小学校 本郷 一毅

1. 研究のテーマ

心豊かに、たくましく未来を拓く道徳教育
～ 自他の命を大切にしようとする心を育む～

2. 研究概要

(1) はじめに

いじめが原因とされる子どもの自殺が大きな社会問題になっている。自殺以外にも、犯罪の低年齢化や不登校、児童虐待など、子供の問題が注目されている。健全な子どもの心を育てるために、道徳教育が必要である。近年、少子化や核家族化の影響で、一家族の人数が少なくなっている。また、近所との付き合いも希薄になりつつあり、学校以外の場所では、子どもの社会は非常に狭いものになっている。昨年起きた、岡崎でのホームレス殺傷事件も、狭くなった社会環境が、事件の一因にもなっているように感じる。

一方、子どもたちを見てみると、明るく活発な子が多く、教室には、いつも元気な声が響いている。また、素直な子が多く人の意見や注意を受け止めることはできる。しかし、幼さが残っているためか、自己中心的な行動が多く見られる。経済的には良好な家庭が多く、学校の教育活動については、保護者からの信頼を得られているように感じる。しかし、共働きの家庭や、母子・父子家庭が多く、多く忙しいためか、忘れ物が多かったり、必要以上に人との関わりを求めたりするなど、子どもに十分に手がかけられていないように感じられることがある。学校で見られる児童の幼さや、自己中心的な行動は、家庭環境にも原因の一端があるように思われる。

本校では平成 17 年度の研究発表時から、地域の方や、保護者が子供の中に入って「道徳の時間」の授業に参加する、「地域・保護者参加型」の授業を積極的に取り入れている。子どもの道徳性は学校だけで育てられるのではない。今のような世の中であるからこそ学校と家庭さらには地域が手を取り合って、健全な子どもの心を育てていく必要がある考え、実践に取り組んだ。

(2) 研究の視点

心に響く「道徳の時間」の指導法の工夫

ア. 道徳六名单元「今ある命を大切に」の計画（単元構成の工夫）

道徳六名单元とは、体験活動と「道徳の時間」を組み合わせた総合単元のことである。

本研究で扱う資料「さとうきび畑」は、日本で唯一地上戦が行われた沖縄を舞台に、わが子の姿を見ることなく命を落としてしまう父親と、その家族のことを表現した歌である。さとうきび畑の美しい情景と、戦争の悲惨さを同時に描いた心打つ曲である。しかし、歌詞ということもあり、抽象的な表現が多い。また、当然、子供たちに戦争体験はないので、歌詞だけを聴いて、登場人物の心情をとらえることは、非常に困難であると思われる。そこで、道徳六名单元を計画することで、戦争についての理解を深め、そのことによって、歌詞に登場する人物の心情を深く考えられることにつながると考えた。とくに、ドラマ「さとうきび畑の唄」は、本資料の内容をドラマ化したものである。このドラマを視聴させることにより、資料の世界に入り込みやすくなると同時に、「共通体験」という視点からも効果的であると考えた。

単元計画を次ページに示す。

行事 運動会「ヌチヌグスージ～命きらめいて～」 家族参観

・エイサーの踊りや、組み立て体操での表現運動

社会科 「長く続いた戦争と人々の暮らし」

・日清・日露の戦争から、太平洋戦争までの学習

- ・戦争で多くの人の命が奪われたんだね。
- ・調べ学習をして、原爆や沖縄戦など、たくさんのことが分かったよ。
- ・日本にも戦争の責任があったんだね。

道徳の時間 家族参加型の授業
「さとうきび畑」 3-(2) 生命の尊重

家族や身近な人の命が奪われることの悲しみを考え、命を大切にしようとする気持ちを高める。

- ・一つの命が奪われることで、周りの多くの人たちを悲しませるんだね。
- ・命を粗末に扱ってはいけないうね。

道徳の時間 家族参加型の授業
「ドラえもんの声」 1-(6) 個性の伸長

家族や身近な人の命が奪われることの悲しみを考え、命を大切にしようとする気持ちを高める。

- ・ぼくたちと同じぐらいの年齢の子が、たくさん犠牲になったんだ。
- ・平和な世の中で生きていくことに感謝して演じよう。

国語科 「ヒロシマのうた」

・物語の読み取り

- ・戦争中は、命が軽く扱われていたんだね。
- ・広島の人たちは、戦争も原爆も乗り越えて、強く生きてきたんだね。

総合 「さとうきび畑の唄」 保護者参加

・ドラマ「さとうきび畑」の視聴

- ・戦争中は、自由がまったくなかったんだね。
- ・戦争のために、家族がばらばらになってしまって悲しかったよ。

音楽 「さとうきび畑」

・「さとうきび畑」の合唱

- ・命の大切や平和への願いを込めて歌おう。

行事 学芸会「さとうきび畑の唄」 家族参観

・「さとうきび畑の唄」の演技

今ある命に感謝して、明るく元気に生活していこう

イ. 授業の展開の工夫

資料の内容にスムーズに入っていけるように、また、ドラマの内容を思い出せるように、導入では、ドラマ「さとうきび畑」の冒頭部分を視聴させるようにした。終末部分では、そのドラマの冒頭で登場する、今の自分に自暴自棄になっている少女に、メッセージを書く活動を取り入れた。資料もドラマも戦争の時代を描いている。現代のシーンに登場する少女に、メッセージを書くという活動を入れることで、戦争から離れて、「生命の尊重」について考えることができると思ったからである。

家庭や地域社会との連携を通して道徳的实践力を育む活動の工夫

本時では、前述のように「保護者参加型」の形態の授業を取り入れた。保護者参加型の形態とは、従来の「ゲストティーチャー」の考え方を発展させ、家族や地域の方数人に、子供の中に入れてもらい、子供と同じ視線で授業に参加してもらう授業形態である。発言も授業の流れの中で、子供たちと同じように短い発言をしてもらう。家族や地域の方には、学校の道徳教育を理解してもらえ、地域社会の中で子供を育てていこうとする意識が高められると考える。子供たちには、道徳の時間の中で大人の意見を聞くことで、自分の考えが深められ、道徳的価値観がいつそう深められると考える。

3. 実践と考察

(1) 本時における「生命の尊重」のとらえ

本時で扱う資料は、前述のように、沖縄戦を描いた歌の歌詞である。「戦争をしてはいけない」という「反戦」に主眼がいきそうにも感じられるが、戦争を前面に押し出すのではなく、主人公である「私」の気持ちを考えることによって、身近な人の命が失われる「悲しみ」や、その悲しみが一人の悲しみではなく、多くの人を悲しませることに気づくことで、命の大切さを深く考える機会にできればと考えた。

(2) 授業の実際および考察

運動会の表現運動に始まり、国語科の「ヒロシマのうた」、社会科の「長く続いた戦争と人々の暮らし」な

ど、本来の単元を入れ替え、太平洋戦争や沖縄戦について学ぶ機会を設定したが、今回はドラマ「さとうきび畑の唄」の試聴から、実践報告をしたい。

ドラマ「さとうきび畑の唄」の試聴

『さとうきび畑の唄』はTBSで2003年9月28日に放送されたスペシャルドラマ、平成15年度文化庁芸術祭テレビ部門大賞受賞作品。

太平洋戦争の頃の沖縄と沖縄戦を舞台にした物語である。内容は家族の尊さを扱った反戦ドラマで、明石家さんまの兵隊役はまさに名演技であり、演技派役者としても再認識させた。寺島尚彦の代表作『さとうきび畑-NHKみんなのうた(歌、ちあきなおみ・森山良子)』をモチーフに作られており、タイトルもそこから付けられている。

(フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』より)

家族参加型の授業を行うこともあり、保護者に呼びかけ、子供と一緒にDVDを試聴するようにした。保護者の参加は4名であったが、その後、DVDや、同名の本(汐文者)を貸し出すことで、テレビを見た保護者も含め、ほとんどの保護者に「さとうきび畑の唄」の内容を知ってもらうことができ、家族で共通の話題を作ることに繋がった。

ドラマ試聴時には、多くの子供が感動し、泣きながら画面を見つめていた。試聴後に書いた感想には次のようなものがあった。(抜粋)

・さとうきび畑の唄をみて、大切なことを学びました。勇気と、人間には一番大切だと思う優しい心です。「友達のために死ねる!」というような勇気のある心はとてすごい!と思いました。優しさでは、けがしている人が敵だとしても、「同じ人間だから私には殺せない」と言えるのはびっくりしました。

・すごくたくさんの死者が出て、仲間どうしでもこ殺してしまって、みんな自分のことで精一杯な感じでした。(中略)家族っいいいなと思いました。もう二度と戦争をしたくないです。どこの国もみんな仲良くしてほしいです。

道徳の時間の授業

事前に保護者に授業のことを知らせ、希望者を募り、父親2名、母親2名の参加が得られた。前日に資料と展開案を渡し、直前に打ち合わせを行ってから、授業に入った。

ア.「きづく」場面

導入では、ビデオの冒頭部分を見せた後に、上で紹介したうちの、2人の子供の感想を紹介した。さらに、授業に参加した保護者の一人にも、感想を言ってもらった。この活動により、スムーズに資料の紹介に入っていくことができた。

私たちが戦争を経験しておらず、伝え聞いてきて、悲惨なものとは知っていたんですが、ドラマで、身近な人が死んでいくのを見て、戦争の悲痛さを改めて感じました。二度と起きてほしくないと思いながら見ていました。(保護者の発言)

イ.「ふかめる」場面...資料の提示

森山良子さんが歌う曲は、全部で10分以上かかる長い曲である。授業で用いるとそれだけでかなりの時間を費やしてしまう。そのため、前日にCDを聴かせておき、本時では、絵本(葉祥明・絵 二見書房)を拡大したものを読み聞かせし、さらに拡大した歌詞カードを掲示した。

子供たちに分かりやすく提示できたと同時に、時間の確保ができたのではないかと思う。

ウ.「ふかめる」場面...中心発問

発問は2つに絞った。

第一発問「父の声を探しながら、畑の道をたどる『私』はどんな気持ちなのでしょう」では、あまり意見は出されず、「いつかお父さんに会えるかもしれない」「お父さんに会ったことがないから会いたい」という意見に集約されてしまった。ただ、ここでは、多様な意見は逆に考えにくく、ドラマや歌詞の内容を

理解しているからこそその結果なのかもしれない。

中心発問「消えない『この悲しみ』とは、どんな悲しみでしょう。」では、考える時間をしっかりと、ワークシートに自分の考えを書かせるようにした。授業記録に示すように、はじめは、C12のような、「私」の悲しみと、C15のような、多くの人の悲しみに集中した。そこで、T9のような補助発問をしたところ、参加した保護者の挙手があり、P2のような、「母」の立場の意見を得られた。この意見を受け、C21のように、父親の立場の意見が、子供から出てきた。これは、保護者の発言によって、子供たちに今までとは違った視点が与えられ、新しい視点に立っての意見が得られた場面である。保護者参加型の授業の効果であると言える。

また、ワークシートには、次のような意見が書かれていた。

- ・ もう二度とお父さんに会えないという悲しみ
 - ・ 家族を失った悲しみや、戦争に対する悲しみ、たくさんに失われた命への悲しみ、命はどんなに願っても一生戻らない。
 - ・ 戦争をして、たくさんの人が死んでしまって、家族をなくしてしまう悲しみ。
 - ・ たとえ流した涙はかぜに乾いたとしても、戦死した人たち、戦争に巻き込まれた人たちの悲しみ、戦争で命を無駄にし、次々に死んでいってしまう人たちの悲しみはいつになっても消えない。
 - ・ お父さんが死んでしまったことへの悲しみ、お父さんに会いたかったな。
 - ・ 戦争で死んでいった父への悲しみ。父に一度も会わずに、知らずに死んでしまった悲しみ。
 - ・ 大切な人の命や、沖縄に住んでいる人たちの命が香も簡単に失われていく悲しみ。美しい沖縄が、アメリカ軍の攻撃によって破壊された悲しみ。
 - ・ 私がお父さんに会えない悲しみ。大切な家族を失ってしまったということ。
 - ・ 戦争中、私の名前をつけてくれたお父さんが戦死し、一度もお父さんと話をしていないのに戦死してしまったこと。
 - ・ お父さんが死んでしまったことが、家族にとってものすごく大きな、消えない悲しみ。
 - ・ 戦争で多くの人が死んでいった。家族はみんなバラバラになってしまったり、戦争でたくさんを奪われてしまった悲しみ。
 - ・ 家族や大切な人、たくさんの人々の命が失われた悲しみ。命はどんなことをしても返っては来ない。その人たちはまだ生きていたいという気持ちがあるのに、そんなのまったく考えずに殺してしまうから。
 - ・ 戦争で死んでいった、知らないはずの家族に会いたいけど会えない悲しみ。
 - ・ 家族がアメリカ軍に次々と殺されてしまった悲しみ。
 - ・ 国々が争って、命が消えていく悲しみ。戦争というものができてしまった悲しみ。
 - ・ 戦争でたくさんの人や家族が死んでいって、一番大切なものを奪われ、心に深い傷を負ったというそれくらい深い悲しみ。
- (保)愛する家族を残して、いさへと出ていかなければならない悲しみ。

発言はできなくても、多くの子供がしっかりと命が失われることの「悲しみ」について考えられていた。

エ.「あたためる」場面

森山良子のほかに、「さとうきび畑」を歌っている歌手を紹介した後、授業記録のように、現代の社会の中で、命が粗末に扱われていたり、命が大切に扱われていたりすることを聞いた。保護者からも意見が出され、子供たちも納得した様子で、意見を聞いていた。

授業の最後に、ドラマの冒頭部分に登場した少女

- | | |
|-----|--|
| T8 | 消えない『この悲しみ』とは、どんな悲しみでしょう。 |
| C12 | 戦争で家族に会えない悲しみ。 |
| C13 | 失われた命の悲しみ。 |
| C14 | 父に会えない悲しみ。 |
| C15 | 大切な人や沖縄の人々の命が、いとも簡単に失われた悲しみ。 |
| C16 | 一度にたくさん命が奪われる悲しみ。
(中略) |
| T9 | 黒板を見てみると、私や多くの人の悲しみが多いですが、別の立場の人の悲しみはないかな。 |
| P2 | <u>だんなさんや、子供を失ってしまった母の悲しみがあると思います。</u> |
| C21 | 子供の成長を見れずに、死んでいくお父さんの悲しみ。 |

- | | |
|-----|---|
| T13 | 今の世の中で、命が粗末に扱われていたり、命が大切に扱われていたりすることはないですか。 |
| C25 | 乙川で、おぼれた子を助けたニュース。 |
| C26 | 自殺をしていく人がたくさんいるので、もう少しがんばればいいのと思います。 |
| P4 | このところ、虐待だとか、わが子を殺してしまうという事件をよく聞きますが、私には理解できません。いいほうでは、昨日の地震(中越沖地震)で、近所の人たちみんなで瓦礫の下敷きになっている人を助けたというニュースです。 |

に、メッセージを書く活動を行った。時間の都合で、時間内に発表はできなかったが、子供たちは、次のようなメッセージを書いていた。

- ・ 人が地球からいなくなったら、今ある建物もなく、家族の大切さもみんな知らないし、家族のきずながこんなにも素晴らしいものだと思うことができないから、「人がいないほうがいい」なんて思いません。
- ・ 自分も人間なんだから、いなくなっちゃえばいいなんて言っちゃだめだよ。せっかくの人生なんだから、しっかり生きればいいのに…。
- ・ そんなこと簡単にポンポン言っちゃだめだよ。もっとがんばれ～！
- ・ 本当に今の時代に生まれていいと思いますよ。絶対に…。私たちは本当に幸せだよ。
- ・ 地球から人がいなくなったら…。考えてみてください。そんなマイナスなことは考えないで、前向きにがんばっててください。先生に言われたからって、気にしないでがんばって一生懸命生きてください。
- ・ 「人間なんていなければ…」なんて、あなたが産まれるために何人の人がいたか…。この地球に人間がいなければ、今がないのだから、もっと大切に思わなければいけないと思う。
- ・ 地球にもし人がいなくなったら、地球はすごくひどい姿になると思う。先祖に感謝をして、未来に大切な命がつけられたらいいなと思う。
- ・ 地球に人がいなくなったら、それはとてつもなくひどいことと思った。ものすごく広い宇宙に誕生した生命。その奇跡に感謝しなければならないと思う。大切な人が死んでしまうだけで悲しむなら、子の大きな悲しみにたえられないとぼくは思った。
- ・ 自分はいいと思うけど、他の人は反対だと思うよ。戦争で死んでいった人たちも、まだ生きてかかったと思うよ。
- ・ 今は「人生に飽きたから」などというようなことでたくさんの方が自殺しているけど、その考えは違うと思います。神様からもらった命です。せっかもらったというのに、すぐに死んでしまうなんて命がもったいない。(たぶんそんなこと自殺する人は考えてないけど)だから絶対に命を捨てるな！
- ・ 命は大切で、お金よりも大切なものだから、命をごみのように言わないでほしい。
- ・ そうやって簡単に地球から人間なんていなくなっちゃえばいいのにとか言わないで、他人だろうと同じ人間だから困っている人がいたら助け合えばなんでも乗り越えられるから、命を大切にして生きていけばいいんじゃないかと思います。＜世界中の人に＞沿う簡単に命を捨てないで、お母さんがせっかくくれた命なんだから、がんばって生きていこう！「死にたい」って思うことがあってもそのうち楽しいことがあるさ！
- ・ 「これからがんばっても意味がない」じゃなくて、今からの自分をチェンジしてがんばろう！生きていけば楽しいことが何度もくるんだから！自分に自信を持って！ここまで育ってきて何言ってるのよ！ここまで育ってきたんだから、今からの人生を大切に前に進んでいこう！がんばって！
- ・ 沖縄戦で死んでしまった人は死にたいと思って死んだんじゃない。何もしていないのに戦争に巻き込まれて死んでしまった。だから、今ある命をお父さんや家族、死んでしまった沖縄の人たちの分まで生きるんだ！そうすれば何かいいことあるよ！
- ・ 生きていけば必ずいいことがある。だから元気に生きていたほうが、毎日が楽しくなると思います。人間なんていないほうがいいなんて言ってないで、毎日楽しく生きていけばいいと思います。

色々な視点から、メッセージが書かれていた。授業を通して、戦争にこだわらず、自他の命を大切にしていこうとする心情を高められたと思う。

4. 成果と反省

(1) 視点 について

単元構成の工夫

国語・社会で単元の順番を入れ替え、運動会学習から始まる道徳六単元「今ある命を大切に」を計画したことで、太平洋戦争時の時代背景や人々のくらしを理解した上で、道徳の時間の時間に入ることができた。またドラマを視聴させたことで、歌詞を読んだり、聴いたりするだけではとらえられない情景をと

らえることになり、本時で考えさせたかった、命が失われることの悲しみについて、深く考えさせることができた。これらの手立ては、資料の内容をより深く考えることにつながった。

授業展開の工夫

学年別研究部会の先生方からのアドバイスもあり、無理のない授業展開ができた。とくに、ドラマの冒頭部分（現代の場面）を見せることから授業に入り、そのドラマの登場人物にメッセージを書くという形で授業を終えることで、全体の展開が自然に流れることになった。歌詞に描かれている過去の世界から、現代へもどって考えることもスムーズにできた。

(2) 視点 について

保護者参加型の授業の形態をとったことで、P4(3.(2)ウ)で示したように、保護者の発言によって、停滞しかけた子供の思考に、「母親の立場」という新たな視点が与えられ、子どもから新しい意見が出されることにつながった。この授業とは別の機会ではあるが、保護者参加型の授業に参加した保護者からの意見を紹介する。

授業に参加して、とてもよかった。今までの授業参観は、自分の子供の様子を見て、喜んだり怒ったりしていただけだったが、発言しなければいけないので、他の子供の意見も一生懸命聞いた。子どもって、すごく色々なことを考えているんだってことが分かってよかった。道徳の授業に対する考え方が変わった。

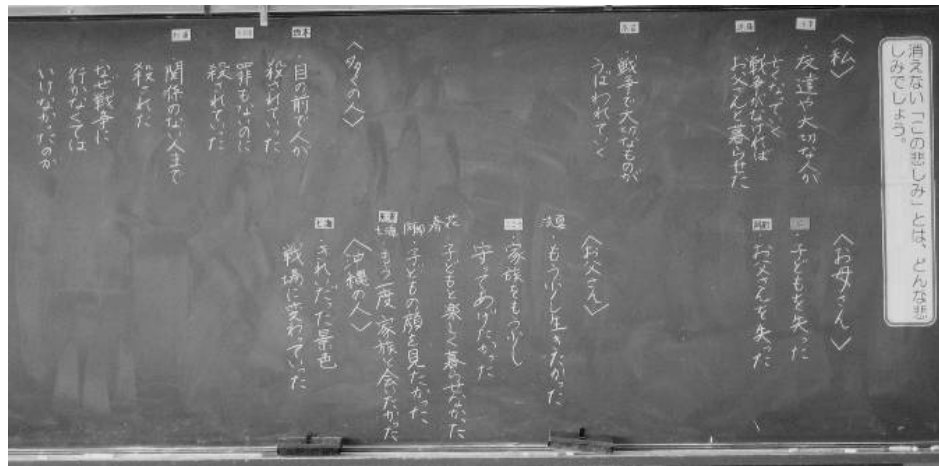
このように、保護者参加型の授業は、保護者にとっても、子供といっしょになって、道徳的価値について考える機会となり、家庭や地域社会と連携して道徳的実践力を育むための、非常に有効な手段であると言える。

(3) 反省

単元を組み替えたり、ドラマを見せたりするなどして、歌詞の内容をとらえやすいように工夫したが、1時間の道徳の時間の授業として考えると、無理があったと思う。また、戦争についての学習をしない15年生については、発達段階から考えても難しい内容なのかもしれない。

本実践では「保護者参加型」を意識するあまり、ドラマの視聴から本時の授業まで2週間も間を空けて

しまった。そのことで、話し合いがやや消極的になってしまったようにも思う。写真は、隣のクラスの中心発問の場面での板書であるが、保護者参加型の形態をとらなくても、



様々な立場の人の意見が出された。また、共同研究で授業を行われた先生からの報告でも、多くの視点からの意見が出されたことが確認できた。本時では保護者の意見によって新しい視点が与えられ、結果的に多くの立場での「悲しみ」に気づくことができたが、間を空けずに授業を行えば、活発に意見が出され、また違った視点からの保護者の発言が聞かれたのではないかと思う。

本単元は、まだ完結していない。学芸会では、子供たちとも相談して「さとうきび畑の唄」を演じることに決まった。そこで、これまで子供たちが学んだ「命の尊さ」を表現することを期待している。